



いなほ

稲積神社社報

第33号

平成22年 5月 3日発行



針供養塔建立四十年節目の針供養祭

正ノ木例大祭式次第

定刻 手水の儀 参進

次 修祓の儀

次 宮司一拝

次 宮司御扉を開く

次 禰宜以下神饌を供す

次 宮司祝詞を奏す

次 献歌

次 玉串拝礼

次 撤饌

次 宮司遷御の祝詞を奏す

次 遷御

次 宮司発御の祝詞を奏す

次 宮司一拝

次 御発

平成二十二年度正ノ木例大祭神賑行事(予定)

四月三十日(金)

献木祭 午前十時

甲府商工会議所(境内)

五月二日(日)

前夜祭 午後六時(社殿)

飯野のり子歌謡ショー 午後六時(舞台)

三日(月)

大祭 午前十時

御輿渡御 午前十一時~午後四時

奉納相撲 午前十一時~

バザー 午後二時~

カラオケ大会 午後六時~八時

四日(火)

二ノ祭 午前九時

甲府囃子 午前十時~午後三時

演芸 午後二時~八時

五日(水)

三ノ祭 午前九時

童謡ちゃんこの会 午後一時~二時

コンサートSTUDIO bdg 午前十一時~五時

成就祭 午後六時



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



御朱印信仰

宮司 根津泰昇

御朱印は「記念スタンプ」とは異なり、神職が社名、参拝日を墨書で記し、神社印や社紋を朱肉で押印されています。

神社印、社紋印が押印されていることは神社の「神璽」であります。故に「御霊」を宿す事になりますので不敬ならぬよう心掛ける事が大切です。

朱印を受ける時に見かける光景ですが、朱印帳を忘れたので紙朱印をお受けになる姿をお見受けしますが、朱印帳は持参する心掛けが大切なことあります。

御朱印帳は神社で清められた物を使用し、直に記し押印して戴くことが真の朱印であります。正に神社で授与されております「御札」と同等の価値であると言えますでしょう。

御朱印は参拝の証にもなります。ですから一社の御

朱印を何回受けられても差し支えありません。むしろお参りの際にはお受けになる心掛けが大切であり、必ずしや心のより所となることでしょう。

私事になりますが、朱印帳は常に持参しております。鳥居が目につけば参拝し、参拝できたことへの感謝と、神様にお会い出来たことの証としてご朱印を戴いております。

以前伊勢神宮へ一年間月参りをさせて頂いたご縁がございました。合わせて「内宮」「外宮」の御朱印が二十四回戴きました。この一年を通しての参拝が、私の信仰基盤のひとつになったことは事実であります。

伊勢の神宮は全てで二五の宮社がございますが、御朱印を受けられる宮社が七社でございます。私も残すところ三社となりました。

このような尊い御朱印帳の扱いですが、普段は家の守

り神である神棚へ上げて置くことも良いでしょう。又ご自身の身近でも、机の上でも、食卓の上でも置いて

も差し支えありません。何故なら御朱印帳はご自身で参拝し賜った「神璽」であり「御霊」ですので、ご自身の守り神の証でもあります。悩み事がお有りの時は胸元に覆い考えることも良いでしょう。お清めに就寝するときに枕元に置き翌日の生気興隆のご神縁を授かることも良いでしょう。共通した信仰で「わかえ信仰」がございます。

御朱印に今一度心を寄せて、ご自身の「守り神」として八百万の神々様のご神縁をお授かりになることを願っております。

ご案内
当神社の崇敬会にご入会賜りますと、清められた御朱印帳をお渡しします。先にご入会の会員の方で既に満願(全て押印済み)の会員は遠慮なく社務所にお声かけ下さい。新たな御朱印帳をお渡し致します。

新年度役員紹介



- 顧問総代 丹澤 正臣氏
- 責任役員 小尾 武氏
- 総代 齋藤 茂氏
- 総代 宮川 睦武氏
- 総代 飯室 武氏
- 総代 塩島 好博氏
- 総代 内田 清氏

外郭団体役員紹介

- 稲積神社甲府伊勢講 講元 河崎 久弥氏
- 崇敬青年会 会長 大澤 慶暢氏
- 稲積神社ソフトボール部 監督 秋山 学氏
- 稲積睦 会長 長瀧 英規氏
- 稲積神社雅楽会 会長 山口 宣貞氏
- 敬神婦人会 会長 塩島はる子氏
- 崇敬会友の会 会長 大森 丘氏
- 崇敬会いなほ会 会長 佐藤 久良氏
- 和会 会長 山土井康能氏
- いなづみ会 会長 市村竜太郎氏
- 山梨県子青年協議会 会長 鶴田 勇雄氏

新総代紹介

総代 内田 清氏



南アルプス市曲輪田七二一三
昭和二十二年十月二日生
職業 弁護士
略歴
昭和五十六年四月一日
弁護士登録
平成十二年四月一日
平成十三年三月三十一日
山梨県弁護士会会長
関東弁護士会連合会常務理事
日本弁護士連合会常務理事
平成十五年四月一日
平成十六年三月三十一日
日本弁護士連合会監事
平成二十二年四月一日
甲府家庭・簡易裁判所調停委員
山梨県建築審査会会長
南アルプス市情報公開
個人情報保護審査会会長
甲府個人情報保護審査会委員
山梨県立大学監事
その他

現在
内田法律事務所所長
甲府市宝二一三三四
引き続き新年度役員の方
今年度よりの役員総代様方
の御活躍を心より御祈念申
上げます。

年中行事を楽しむ(五月〜八月)

生活に活力を与える年中行事

お正月の初詣、節分の豆まき、七夕飾り…。これらは日本に昔から伝えられている「年中行事」です。季節の恵みを味わったり、草花を飾ったり、家庭で楽しむことができる素晴らしい行事です。

それらの行事には、さまざまな謂れや起源があります。また、祖先の感性や暮らしの知恵もこめられていて、日本の四季折々の自然風土に調和するかたちで各地に伝えられています。なぜ日本人はこれらの伝統行事を大切に守り伝えてきたのでしょうか？

それは、季節の恵みへの感謝と、日々無事に生活できることへの喜びを確認する機会として、これらの行事を位置づけてきたからに違いありません。

私たちは伝統行事に思いを寄せ、その行事を味わい楽しんで、家庭生活に活力と潤いを与える機会としたいものです。是非家庭で実践してみてください。

端午の節供 五月五日

端午の節供はもともと中国で五月五日に菖草や菖蒲などで厄祓いをしたことに由来します。

この風習が平安時代に日本に伝わり、武士の時代には「菖蒲」と「尚武」をかけて、武を尊ぶ節目として祝うようになりました。

現在のようなかたちとなったのは江戸時代のことです。「鯉のぼり」や鎧、甲冑、武者人形などを飾って男の子の成長と立身出世を願う行事になりました。

◆端午の節供のマメ知識◆

端午の節供に「柏餅」を食べるのは、柏の葉が秋に落葉せずに冬を越し、春に新芽が出てから落葉するため『子孫を絶やさぬ』という意味で縁起が良いとされているからです。また「ちまき」や「菖蒲湯」などはその強い香りに邪気祓いの効果があるとされています。

お盆 七月十三日〜十六日 八月十三日〜十六日

お盆はお正月と並んで一年のうちでも最も大切な行事です。一般的には七月十三日〜十六日、あるいは八月十三日〜十六日のいずれかにお盆の行事は行われています。

古くからあった日本の行事に仏教行事が合わさったもので、お盆の間、家に戻ってくる祖先の霊をお迎えし、またお送りするまでの行事が行われます。七月のお盆の期間には、東京九段の靖国神社では「みたままつり」が盛大に行われます。

◆お盆行事の流れ◆

一 盆棚を作る

「盆棚」はご先祖さまをお迎えしておまつりする祭壇です。古くは座敷に笹竹で組み合わせた四本柱を立て、その下に棚台を置いて作りました。

二 迎え火、送り火をたく

十三日の夕方に、門や玄関先でおがらを燃やし「迎え火」をたきます。十六日にはもう一度おがらを燃やし「送り火」をたきます。

三 精霊流し

送り火をたいた後、盆棚のお供えや飾りを盆船に乗せ、明け方までに川や海に流す伝統的なしきたりが「精霊流し」です。

土用の丑 七月二十一日頃

土用というのは本来、立春・立夏・立秋・立冬の前の十八日間を指し、年に四回あります。そのなかでもとくに気候の変化の激しい七月二十日〜八月七日頃までの立秋前の土用が、現在は「土用」として知られています。

その期間にある「丑の日」に鰻を食べ、夏に負けない体力をつけようという習慣が全国に広がりました。

◆土用の丑のマメ知識◆

土用の丑の日に鰻を食べる習慣は江戸時代に始まったといわれています。江戸中期の学者、平賀源内が鰻屋に宣伝を頼まれ、看板に「本日丑の日」と書いたことからそれが広まったとされています。鰻に関する記述は古くは万葉集にも出ており「石麻呂に吾もの申す夏瘦せによしといふものぞ鰻取りめせ」と大伴家持が歌に詠んでいます。

祭典行事歴

(五月〜十二月)

毎月 一日 月始祭
三日 月次祭
十五日 神恩感謝祭
古神礼

五月二日 正ノ木大祭前夜祭
三日 正ノ木例大祭
四日 大祭特別祈願祭
五日 三ノ祭

六月六日 正ノ木大祭終了祭
お田植祭
三十日 夏越大祓・万灯祭

七月十五日 瘡子社例祭
八月 富士ヶ嶺開拓祭
九月 崇敬会大祭

十月九日 金刀比羅神社例祭
抜穂祭
十一月二十三日 新嘗祭

十二月五日 境内清掃奉仕
三十一日 年越大祓

伊勢神宮新穀感謝祭と熱田神宮正式参拜 一泊二日の旅

甲府伊勢講千社詣の旅

伊勢神宮新穀感謝祭と熱田神宮正式参拜 一泊二日の旅

十二月五日 境内清掃奉仕
三十一日 年越大祓

毎月 一日、三日、十五日には

神社にお参り

しましう!!

しましう!!

しましう!!

しましう!!

稲積神社甲府伊勢講第45回特別企画

伊勢神宮新穀感謝祭と熱田神宮正式参拝

伊勢神宮 御垣内参拝・御神楽奉納
伊勢別宮倭姫神社参拝・神宮徴古館見学・熱田神宮正式参拝
伊勢志摩の旅1泊2日

- 旅行予定期日：平成22年11月26日(金)～11月27日(土) 1泊2日
○旅行代金：29,000円 (稲積神社崇敬会員の方28,000円)
○募集人員：200名 (最少催行人員120名)

稲積神社 恵方詣りに参加して

崇敬会 馬場 泉

一泊二日での恵方詣りは二月五日～六日で岐阜県伊奈波神社への正式参拝。出発の五日早朝は大変冷え込みました。全員順調にスタートし、バスの中は皆、楽しみにしていた恵方詣り旅行で盛り上がりました。

県境を越えると車窓からは昨日の積雪で銀色風景、旅の楽しさをなお膨らませてバスは中央自動車道～東海北陸自動車道と快適なドライブでした。バスは美濃加茂インターで降りて日本昭和村公園に着いた頃には降り頻る雪が我々を歓迎するかの様に公園全体を囲みこんだ中、我が童心をかきたてて散策を楽しみ、自然体の中に古い民家を移設され創られた田舎家での昼食も雪見酒と洒落た一時が過ぐせ、これも恵方詣りの御守護かと感謝し、旅は犬山城を見学し宿泊の岐阜市長良川ホテルパークへ。

宿は長良川の畔で夏季には鵜飼で賑わう名所だ。明日の正式参拝を前に若干緊張気味での夕食宴。窓の外は降り頻る雪で真白の雪景色、雪見酒はまた天下一品でした。思えば甲府は積雪が少なく寂し

い思いの為か雪に会えた喜びが感じられた。

岐阜県は山梨と比して、県土は二、三倍、人口は二・五倍とその中で岐阜市の産業は名古屋圏に隣接し恵まれた経済地域と思いが、現状は甲府市同様厳しい様です。

伊奈波神社は文献に依りますと、金華山山麓にあり歴史は古く西暦八十五年景行天皇時代に創立とありますので、創立千九百年の歴史があり主祭神五十瓊敷入彦命が祀られ美濃の国の三ノ宮で初詣のスポット。大変賑わう由緒ある神社、伊奈波神社に正式参拝させて頂き、参拝された皆様共々神の御加護を賜り日々安泰であります様祈願申し上げます。



境内散歩

○文殊の石

御祭神 妙徳菩薩
御神徳 知慧証の三徳
稲積神社の力石は「文殊の石」と呼ばれています。力石の大きさは70×45×35センチです。

石の上に手を置き願ひ事を述べ三回廻ればかなえられるとされている。



針供養 事始めの願、いこめて

二月八日は事始め、針供養の日。

さる二月八日、当社社境内に祀る針供養塔の御前で山梨県和服裁縫組合、日本和裁士会山梨支部主催による針供養祭が斉行された。昭和四十五年に針供養塔が

建立されて以来今年で四十年を迎える節目の年でもあり県内遠近より多勢の組合員の先生方や生徒の皆様が集まり、折れ曲った針をやりわらかなこんにやくたにさして針の供養と裁縫の上達を願っていた。(表紙写真)

編集後記

「いなほ」第三十三号をお届けします。

一連の正月行事から始まり諸々の年中行事が行われ暦では春の季節行事から早くも夏の季節行事へと移っていく。これらの行事は家庭祭祀としても大変重要であり家族の絆をより強固にするものである。廉恥の心を失った国会にあっては法外な親からの子供手当や政治資金など金銭授与に関わる問題で揺れている。又、国の根幹を揺るがしかねない外国人地方参政権の問題、又家庭崩壊に繋がる夫婦別姓問題など先行き不安であるが家庭行事の大切さを再確認して頂きたい。(秋)

稲積神社

命継ぐ食もの衣もの住むいへも 稲荷の神の恵みなりけり 正ノ木稲荷大明神

甲府市太田町公園内鎮座 電話 (055)233-5573 FAX (055)226-0787